

第2章 水道事業の概要

2.1 益田市の概要

(1) 位置・地勢

益田市は、北部は日本海に面し、海岸は白砂青松の石見潟を形成しています。南部は中国山地に至り、恐羅漢山、安蔵寺山などの山々が連なっています。

また、中国山地に源を発する一級河川高津川と二級河川益田川が日本海に注いでおり、下流部には益田平野が三角洲状に広がっています。

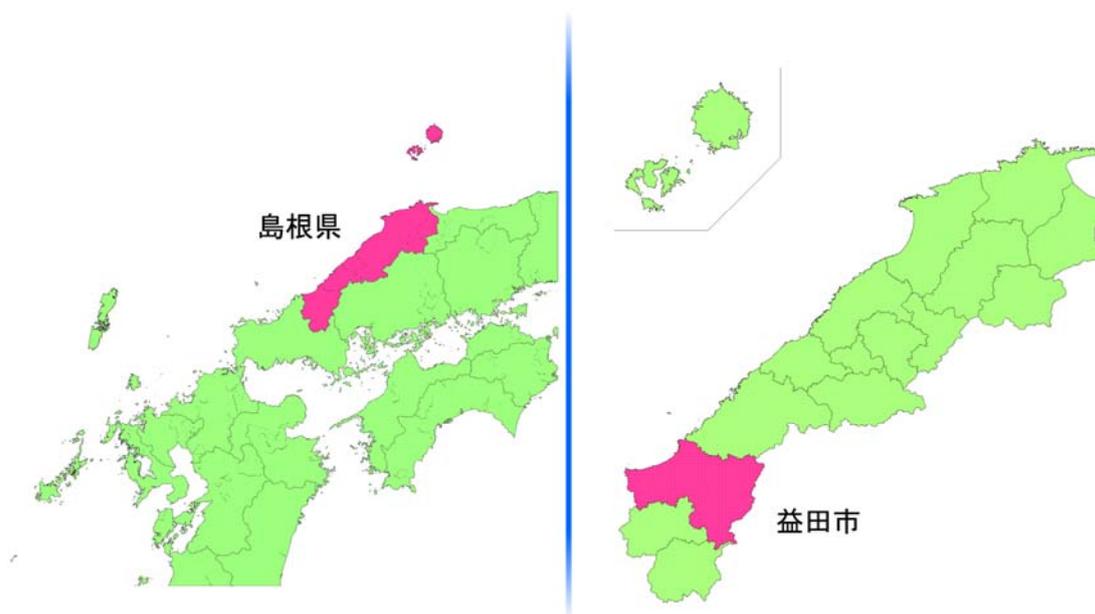


図 2.1 益田市位置図

(2) 面積

総面積は、733.19km²で、島根県の総面積 6,708.23km²の約1割を占め、県内では最も大きな行政区域となっています。特に美都地域、匹見地域では90%近くを山林が占め、急峻な山々に囲まれています。

(3) 気候

平均気温は15～16℃で、年間降雨量は約1,500mm～1,700mm程度となっています。積雪は、平野部は対馬海流の影響を受け、温暖で少なく、山間部でも近年は暖冬の傾向があり、降雪量も少なくなっています。

(4) 交通

益田市の主要交通施設は、萩・石見空港があり、島根県西部・山口県北東部の空の玄関口として、東京便と季節限定で大阪便が運航しています。また、平成 19 年 3 月に一部供用開始した国道 9 号と国道 191 号を結ぶ益田道路及び益田道路に接続する県道久城インター線、並びに事業中である三隅・益田道路についても大変重要な高速交通網となっています。更に海岸を走る J R 山陰本線と本市を分岐点とし、山口県山口市を結ぶ山口線があり、この線に平行して国道 9 号が通っています。これを起点として西部地区には、国道 191 号、県道益田阿武線が走り、地区の動脈的役割をなしています。また、東部・南部地区は、益田川沿いに国道 191 号、匹見川沿いに国道 488 号があり、輸送上の重要な交通網となっています。

(5) 歴史的経緯

益田市には、縄文・弥生時代の数々の遺跡が残されており、先史の時代から豊かな自然の恵みを持ち、九州地方とも交流を行っていました。

12 世紀頃になると、益田兼高が源平合戦の功により、石見守護を任せられ、建久 3 年（1192 年）益田に本拠を移し、七尾城の城下町として都市の基盤を築きました。

益田市は、昭和 27 年 8 月に 1 町 7 村が合併し、市として発足しました。昭和 30 年には、更に周辺 5 村を編入合併し、高度経済成長に伴って、山陰と山陽を結ぶ商業都市として、また、豊富な自然資源を生かした農林、漁業を中心に発展してきました。

そして、平成 16 年 11 月 1 日には、益田市、美都町、匹見町が更なる発展を目指して合併し、新しい益田市として出発しました。



図 2.2 益田市の特徴的な景観

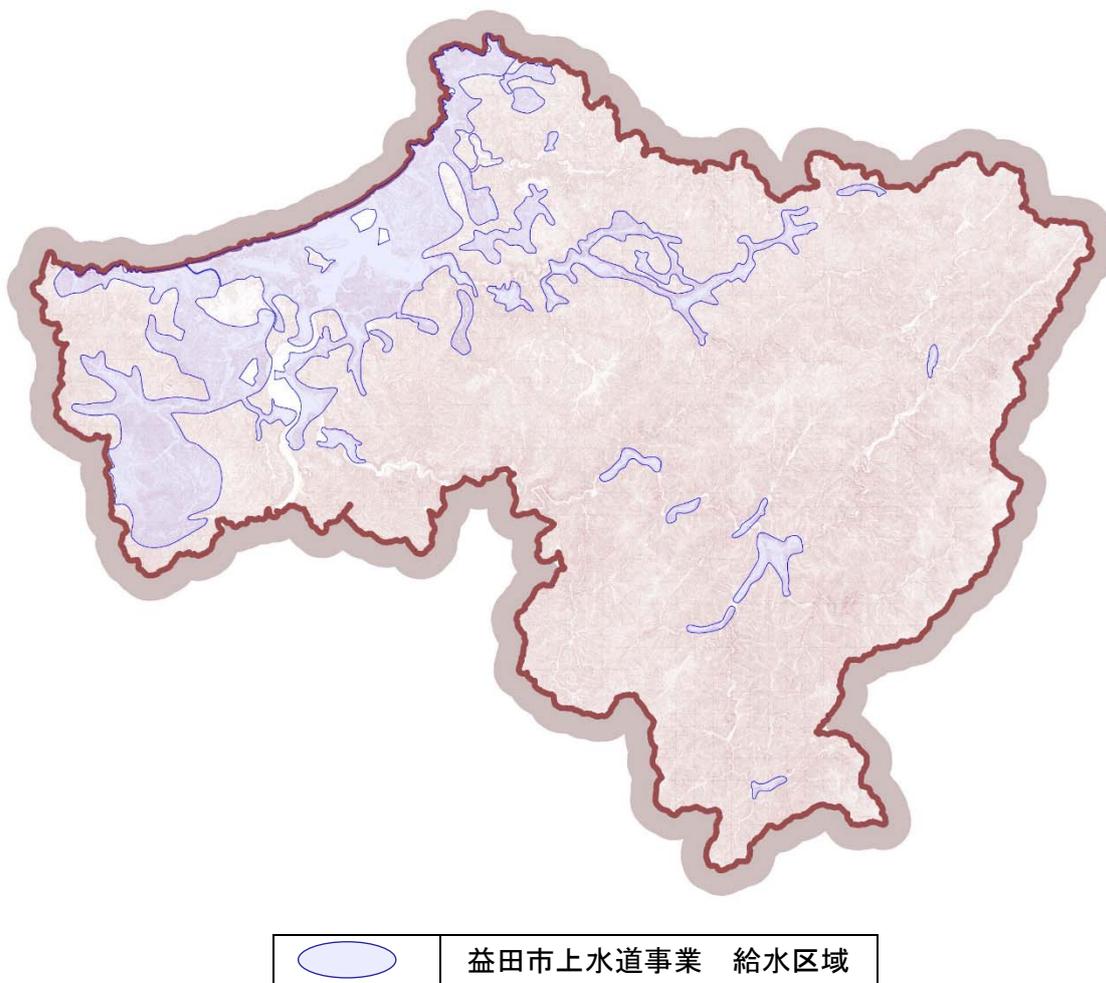
2.2 水道事業の概要

(6) 益田市の水道事業の概要

益田市の水道は、昭和7年6月に事業認可（内務省）を受け、同年12月に工事に着手し、水源を現在の七尾町（益田水源地）に設け、昭和8年10月1日から当時の益田町全域及び吉田村の一部に給水を開始しました。また、昭和27年の市制の誕生と同時に第1期拡張工事及び簡易水道事業^{*}が実施され、本市の水道の基礎を築いてきました。

その後も人口の増加、産業の発展に伴い水需要も増加したことから、現在まで第5期の拡張事業を行ってきました。同時に簡易水道事業及び飲料水供給施設^{*}についても、一部上水道事業^{*}に統合されながら、未給水地域の解消はもとより生活基盤近代化に向けた取り組みを続けてきました。

平成30年度には、益田市上水道にすべての簡易水道事業及び飲料水供給施設を事業統合し、計画給水人口44,175人、計画一日最大給水量^{*}22,431m³/日の水道事業となりました。



出典) 基盤地図情報(国土地理院)を加工して作成

図 2.3 益田市給水区域図

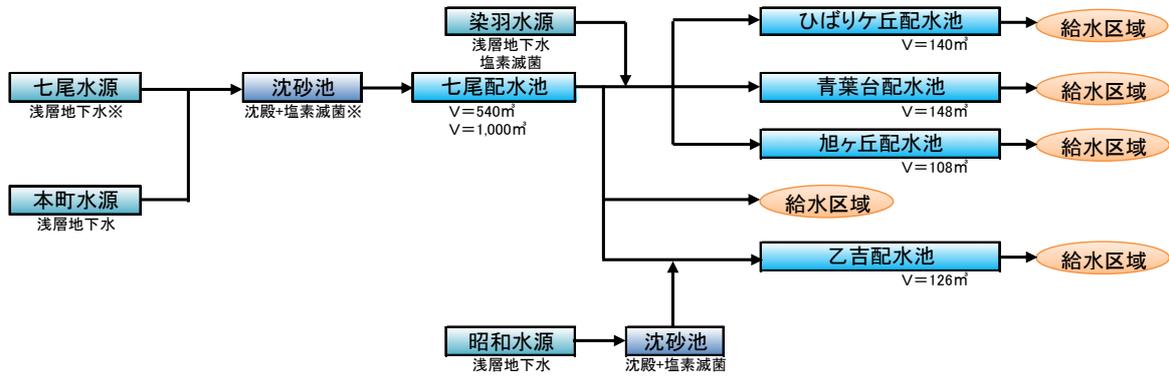
(7) 水道事業の沿革

	上水道事業	簡易水道事業	飲料水供給施設
昭和	<p>7 上水道事業創設 (N=7,200人、Q=1.066m³/日)</p> <p>27 第1期拡張事業 (N=21,600人、Q=3.672m³/日)</p> <p>31 第2期拡張事業 (N=28,500人、Q=5.700m³/日)</p> <p>43 第3期拡張事業 (N=30,000人、Q=12.000m³/日)</p> <p>48 第4期拡張事業 (N=40,000人、Q=20.000m³/日)</p>	<p>29 小野簡易水道創設</p> <p>33 匹見簡易水道創設</p> <p>38 久々茂簡易水道創設 39 澄川簡易水道創設</p> <p>47 都茂簡易水道、小原簡易水道創設</p> <p>49 広瀬簡易水道創設 50 仙道簡易水道、三葛簡易水道創設</p> <p>53 白岩簡易水道、二川簡易水道創設</p> <p>55 笹倉簡易水道創設</p>	<p>43 出合原飲料水供給施設竣工</p> <p>56 落合飲料水供給施設竣工 57 北河内飲料水供給施設竣工</p>
平成	<p>3 第5期拡張事業 (N=50,000人、Q=26.900m³/日)</p> <p>19 未普及対策事業 (N=40,000人、Q=20.400m³/日)</p> <p>22 第1期簡易水道統合整備 (N=38,800人、Q=18.900m³/日)</p> <p>23 未普及対策事業 (N=38,200人、Q=18.400m³/日)</p> <p>29 第2期簡易水道統合整備 (N=44,175人、Q=22.431m³/日)</p>	<p>4 都茂二川簡易水道統合 【都茂簡易水道、二川簡易水道】</p> <p>18 美都簡易水道統合 【都茂二川簡易水道、 仙道簡易水道、笹倉簡易水道】</p>	<p>5 金山飲料水供給施設竣工</p> <p>7 中の谷飲料水供給施設竣工 8 上の谷飲料水供給施設竣工 9 赤雁飲料水供給施設竣工</p> <p>13 宇治飲料水供給施設竣工</p> <p>16 安床飲料水供給施設竣工</p>

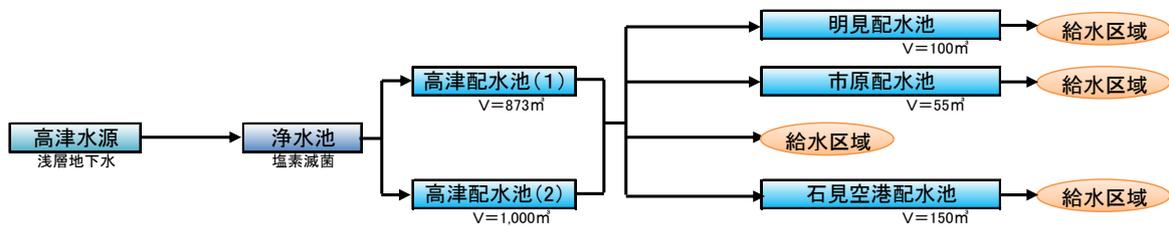
N=計画給水人口 Q=計画一日最大給水量

(8) 益田市の主要な水道施設

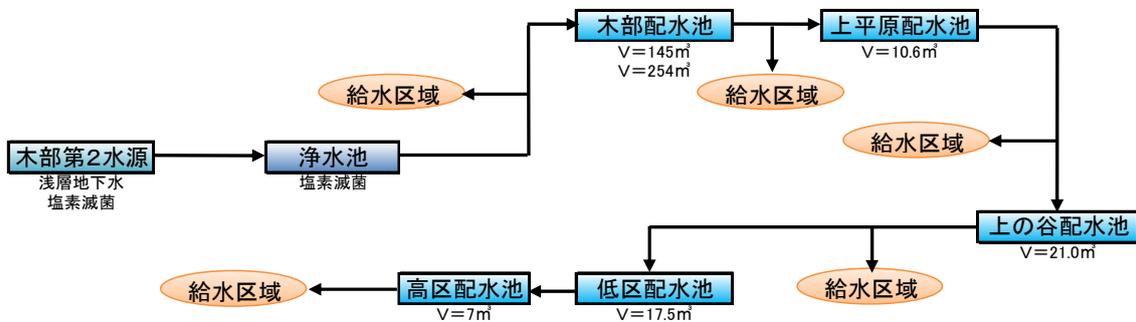
益田水源系：計画取水量=5,769 m³/日



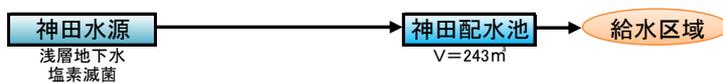
高津水源系：計画取水量=4,000 m³/日



木部水源系：計画取水量=1,600 m³/日

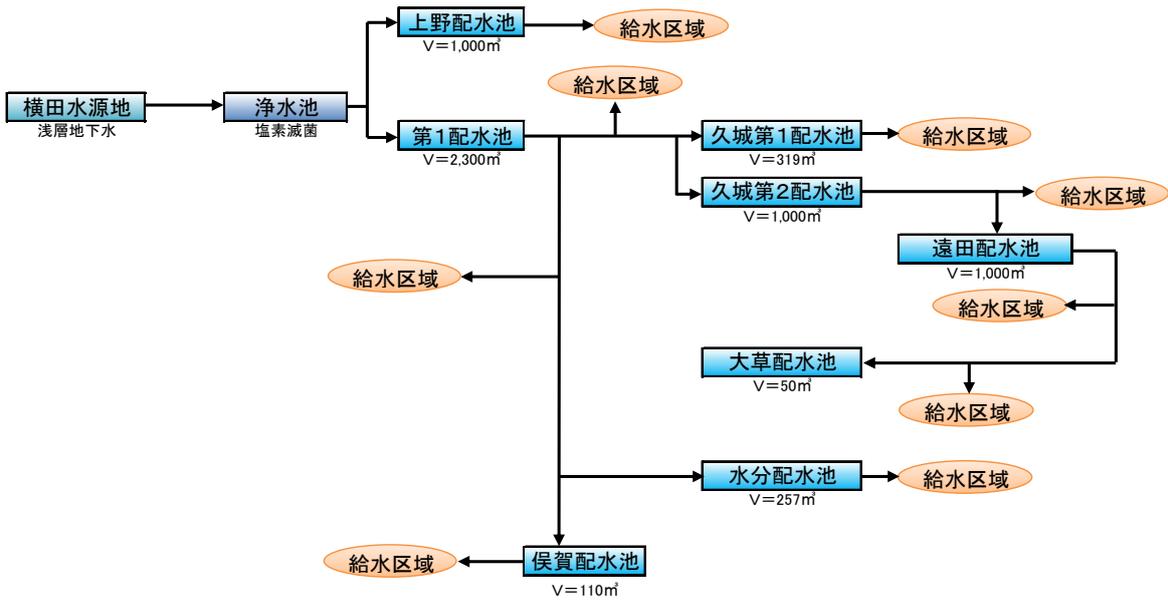


神田水源系：計画取水量=300 m³/日

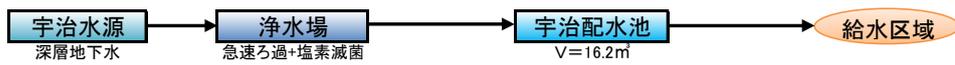


V=容量

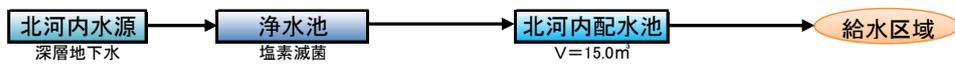
横田水源系：計画取水量=5,600 m³/日



宇治水源系：計画取水量=19.0 m³/日



北河内水源系：計画取水量=18.0 m³/日



安床水源系：計画取水量=27.0 m³/日



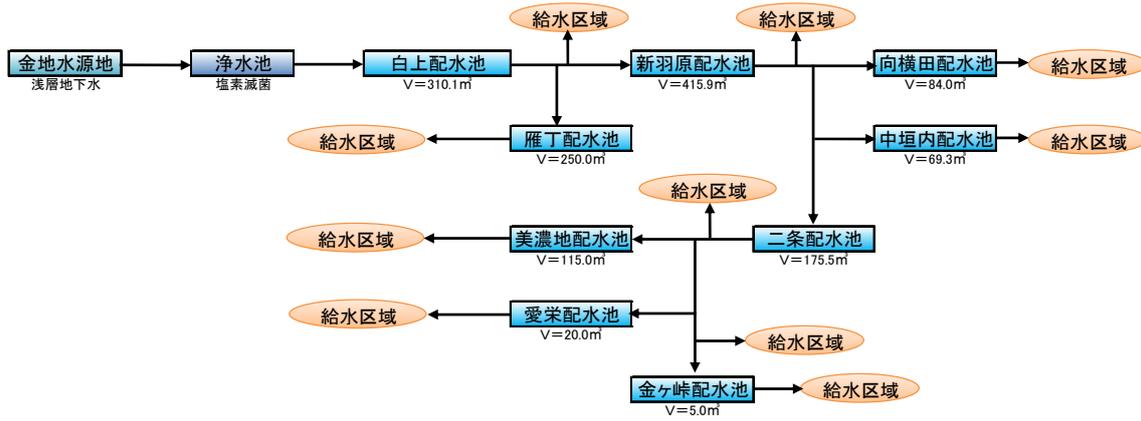
乙子水源系：計画取水量=27.0 m³/日



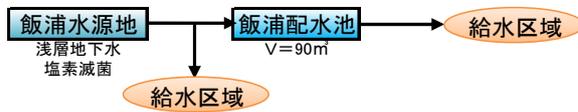
山折水源系：計画取水量=44.0 m³/日



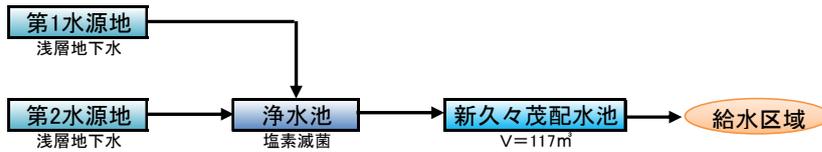
金地水源系：計画取水量=2,414 m³/日



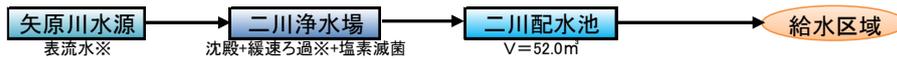
飯浦水源系：計画取水量=130 m³/日



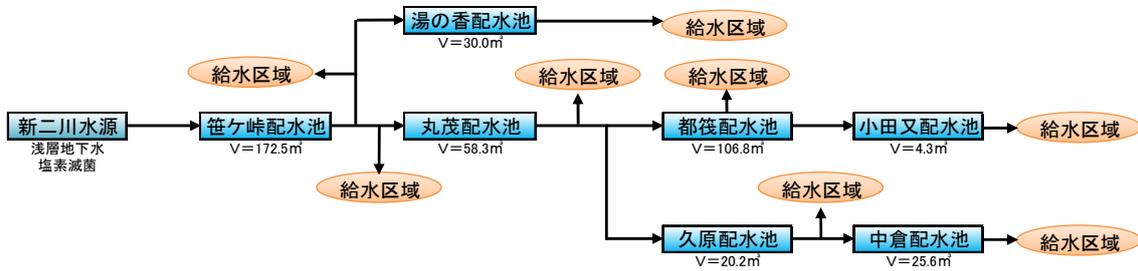
久々茂水源系：計画取水量=182 m³/日



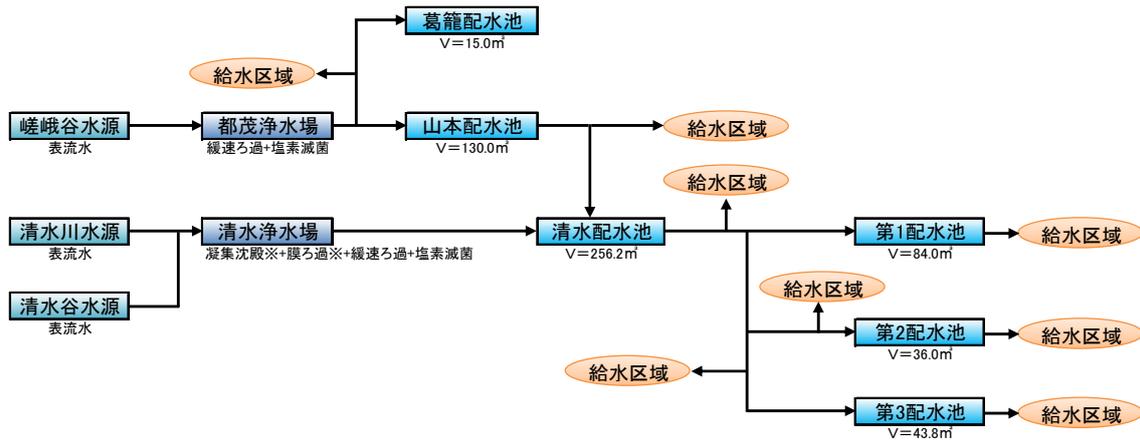
矢原川水源系：計画取水量=49.5 m³/日



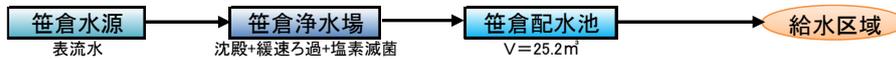
新二川水源系：計画取水量=336.3 m³/日



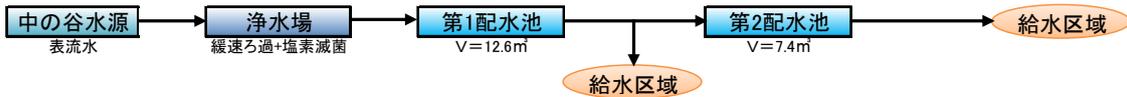
嵯峨谷、清水川、清水谷水源系：計画取水量=654.2 m³/日



笹倉水源系：計画取水量=21.0 m³/日



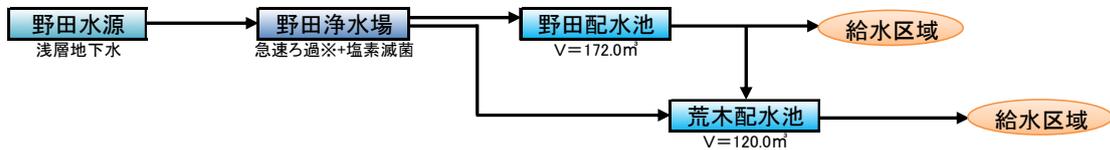
中の谷水源系：計画取水量=8.0 m³/日



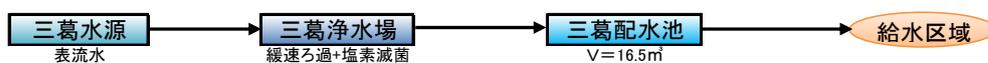
澄川水源系：計画取水量=100 m³/日



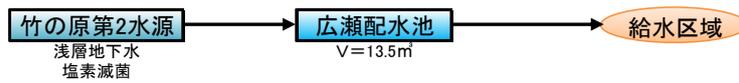
野田水源系：計画取水量=605 m³/日



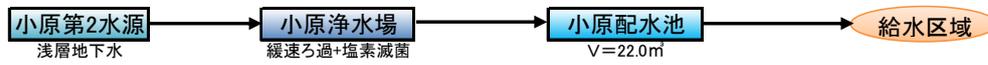
三葛水源系：計画取水量=26.25 m³/日



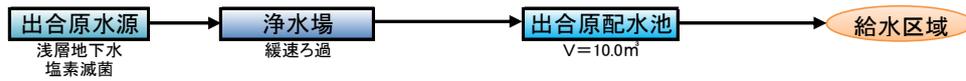
竹の原水源系：計画取水量=14.06 m³/日



小原水源系：計画取水量=22.0 m³/日



出合原水源系：計画取水量=19.8 m³/日



落合水源系：計画取水量=20.0 m³/日

